

こどもがこどもに紙しばい道場

1 活動の概要

図工作家ミノオカ・リョウスケ氏の指導のもと、①紙芝居を演じるのは子ども②観客も子ども③大人は見守るだけ、という3つのルールで行う。3回の稽古で紙芝居の演じ方を学び、発表会でその成果を発表。

2 活動の状況、実際

【対象】小学生

【内容】2022年の春から、春の部、秋の部と年に2回ずつ開催している。1か月に1回の稽古を3回と発表会、計4回に参加することで「小田原紙芝居者」となることができ「段」を取得することができる。

続けて参加することで、段が上がっていくので、子どもたちの励みになっている。紙芝居を演じるだけでなく、新しく入った子にアドバイスできるようになり、発表会では司会などの役割を自分たちで決め、子どもたちで進行していけるようになってきている。また、図書館のイベントでも紙芝居を演じてもらっている。



3 参加者、指導者等の声

紙芝居は読むのではなく演じるので、絵本よりも自由で、子どもにも難しくない。演じるのは楽しい。聞いている子は子どもが演じているから嬉しい。それが紙芝居だから楽しい。演じる子、聞いている子、どちらにも紙芝居は楽しい。

私たちスタッフも見えていてそれを感じる。そして、発表会のたびに子どもたちは、私たちの予想をはるかに超えた成長を見せてくれる。

